

知事あいさつ

第1回目の高知縣市町村合併推進審議会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

各委員さんには、それぞれお忙しいスケジュールを抱えていらっしゃる中で、今回の委員への就任を快くお引き受けいただき、心から御礼を申し上げたいと思います。

今回の市町村合併は、明治の市町村制施行、昭和の大合併に次いで、3回目の大きな再編となりました。そういう大きな歴史的な転換期を迎えました背景には、中央集権から地方分権へという大きな流れや、交通・通信手段の発達などによる私たちの日常の生活の範囲の拡大、あるいは、予想を上回るスピードで進む少子高齢化など、社会情勢の大きな変化があります。加えて、これまでの行政の仕組みから生まれてきた膨大な財政赤字の問題もあります。

昭和の大合併以降の50年を見ますと、今申し上げましたような変化に対応して、民間の様々な分野は、自己変革を行ってきています。そうした中で、地方の仕組みにも、変革が求められるということは、避けることのできない流れだと考えています。

地方でできることは地方で、という地方分権を理念として、スタートした平成の大合併ですが、ここ数年厳しさを増す財政の問題が、合併議論の大きな部分を占めるようになってきたのも事実です。

そのことが、この3月までの全国的な動きとして、予想を上回る市町村再編につながったということも言われています。

本県でも、同様の大きな波が押し寄せましたが、特に財政力の弱い本県において、今後の地域経営を考えていくためには、現実的な対応が迫られるという面も否定できません。そうしたことから、私自身としても市町村合併について、アクセルを踏

むという発言もいたしましたし、昨年度にはご要請を受けて各地域で直接住民の皆様にお話をするとしたことにも取り組んでまいりました。

ただ結果として、各地域のそれぞれの事情もありますため、小規模な町村がまだ多く存在するという状況にありますし、今の国と地方というあるいは東京と地方という図式からは、本県の将来の地域経営がますます難しくなることも懸念されます。

この4月から、5年間を期限とする新しい合併特例法ができ、その中で、各地域での議論につなげていただくため、県として市町村のあるべき姿について構想を作成することになりました。

私は、今回の構想づくりは、人口規模や財政状況のみに着目するのではなく、それらに加えて、本県の地域的特性や、高齢化、過疎化の現状などを総合的に考えたうえで、長期的な視点に立って、望ましい市町村の姿を描いてみることも必要だと思っています。

そうしたビジョンがない限りこれまでの各地域での動きや、高知県の厳しい状況を踏まえて、県民の皆様にご理解をいただき、安心していただける地域づくりはできないと思います。そして、そのうえで、そういう姿に至るまでの現実的な対応も、県としてお示ししたいと考えています。

これから、非常に難しい大きなテーマについて、ご審議をいただくわけですので、いろいろなご負担をおかけすることになるかと思いますが、今の時代の私たちの務めとして、将来の高知県民の皆様にご評価いただけるようなものにしていきたいと思っておりますので、何卒お力添えをいただきますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。